

第9回 YGN 若手勉強会 「国際協力・海外進出の現状と今後」

来る12月22日、日本原子力学会 若手連絡会（YGN: Young Generation Network）は、原子力分野における「国際協力・海外進出の現状と今後」をテーマに勉強会を開催します。

現在、日本の原子力業界においては、軽水炉プラントの建設・運転における海外進出や、次世代炉の研究開発にかかる国際協力が進行しています。今回の勉強会では、英国・ポーランド・フランス等のプロジェクトに携わる講師をお招きし、国際協力・海外進出の現状や苦労、今後の見通しなどについて御講演いただきます。日本の原子力の将来にとって重要な国際プロジェクトについて、第一線で活躍される実務者の方々に話を伺う貴重な機会です。是非奮ってご参加ください。

- 記 -

- 【日時】 2018年12月22日（土） 13:30 - 18:00
- 【場所】 東京工業大学（田町キャンパス）キャンパスイノベーションセンター多目的室2
（アクセス：<http://www.cictokyo.jp/access.html>）
- 【講演】
- | | |
|-----------------------------------------------|---------|
| ①米国・英国での ABWR 新設プロジェクトへの参画 及び
福島事故に関する国際連携 | 立岩 健二 氏 |
| ②ポーランドとの高温ガス炉技術協力 | 柴田 大受 氏 |
| ③フランスとの高速炉 ASTRID 協力 | 佐賀山 豊 氏 |
- 【プログラム】
- 13:30 ~ 13:40 開会挨拶
13:40 ~ 14:40 講演① 45分+質疑応答 15分
14:45 ~ 15:45 講演② 45分+質疑応答 15分
15:50 ~ 16:50 講演③ 45分+質疑応答 15分
17:00 ~ 17:50 パネル討論・総合質疑
17:50 ~ 閉会挨拶・アンケート記入
※会終了後、講師を囲んだ懇親会（実費 5000円程度）を予定しています。
- 【対象】 原則として、39歳以下の若手社会人・学生が対象です。
（日本原子力学会の会員以外の方も参加可能です。）
- 【定員】 40名程度（応募多数の場合は先着順とさせていただきます。）
- 【参加費】 無料
- 【申込み方法】 本勉強会への参加をご希望される方は、12月17日（月）までに、件名を「第9回 YGN 若手勉強会参加申込み」とし、本文に(1)お名前、(2)ご所属、(3)メールアドレス、(4)原子力学会会員区分（正会員/学生会員/非会員）、(5)懇親会の出欠(6)交通費補助希望の有無*を記載の上、以下の宛先までお申込みください。

日本原子力学会 若手連絡会事務局 林 健太郎
メール：hayashi.kentaro@d3.kepco.co.jp

※運営をサポートしてくださる希望者を対象に、日本原子力学会若手連絡会より交通費を補助いたします。
・若干名を対象に先着順とさせていただきます。
・学生は実費の100%、社会人は実費の50%を限度に、最大5千~1万円/人まで（希望者数により変動）
・所属組織からの交通費支給が困難な場合に限りです。

<講師ご略歴>

講演① 立岩 健二 氏

<現職>日本原子力発電株式会社 国際事業推進室 プロジェクトGr グループマネージャー

幼少期を含め通算 15 年間で米国で過ごすも、座右の銘は「和魂洋才」。京都大学原子核工学科卒・同大学院エネルギー応用工学専攻修了後、1996 年に東京電力入社。福島第二原子力発電所、本社原子力技術部にて、確率論的リスク評価や次世代軽水炉の安全設計に従事。「経営のわかる技術者」となるべく、スタンフォード大学に留学し、2004 年に経営学修士 (MBA) を取得。日本の電力会社として初の海外原子力事業 (米国 STP・ABWR 新設プロジェクト) を立ち上げている最中に、東日本大震災発生。海外の原子力機関と連携して福島事故対応に従事した後、ワシントン DC に志願して赴任し、事故の事実関係と教訓を世界に発信。2016 年より日本原子力発電に出向。英国ホライズン・ABWR 新設プロジェクトを推進中。

講演② 柴田 大受 氏

<現職>日本原子力研究開発機構 高速炉・新型炉研究開発部門 国際・社会環境室 研究主席
国際グループ リーダー

北海道大学原子工学専攻修了の後、1993 年 日本原子力研究所 (現 日本原子力研究開発機構) 入所。高温ガス炉の炉心に用いられる黒鉛の研究に従事。第IV世代原子力システム (GIF) の超高温ガス炉 (VHTR) システムについて、黒鉛の専門家として技術会合に参加。高温ガス炉分野の国際協力について、マネジメントを担当。現在、ポーランドにおける高温ガス炉導入の機運を受け、ポーランド国立原子力研究開発センター (NCBJ) との協力のため、調整を進めている最中。

講演③ 佐賀山 豊 氏

<現職>日本原子力研究開発機構 理事長シニアアシスタント

慶応大学工学部機械工学科卒業後、1974 年三菱原子力工業株式会社に入社。その後、東京電力を経て、核燃料サイクル開発機構に出向。経営企画本部 FBR サイクル開発推進部長、次世代原子力システム研究開発部門長等の役職を歴任し、一貫して高速炉開発に従事し高速炉サイクルの実用化に向けた研究開発を推進。2004 年から文科省の参与として GEN-IV における活動を開始し、2013 年より GIF 名誉議長。

<YGN 勉強会について>

日本原子力学会若手連絡会 (YGN) は、若手の日常業務に捉われない自己研鑽や専門分野や所属を超えた繋がりのお機会創出のため、2016 年 10 月より継続的に勉強会を開催しています。

- 第 1 回「もんじゅを見つめ直す」(2016 年 10 月)
- 第 2 回「次世代炉開発に向けて考慮すべきことは何か？」(2017 年 2 月)
- 第 3 回「原子力の将来とイノベーション」(2017 年 4 月)
- 第 4 回「次世代小型モジュラー炉: シンプルで安全、そして経済的な選択肢」(2017 年 10 月)
- 第 5 回「安全神話とは何か。私たちは本当に安全神話に囚われていたのか。」(2017 年 11 月)
- 第 6 回「原子力安全と自治体行政: 福井県の経験から」(2018 年 2 月)
- 第 7 回「原子力プラント建設の技術継承」(2018 年 5 月)
- 第 8 回「著者と語る『日本の原子力外交-資源小国 70 年の苦闘』」(2018 年 7 月)